

☞昨年末より事務局のメールが変更しています。npoinch@yahoo.co.jp に変更しました。よろしくお願ひします。☞

☞ホームページも <http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html> に変更しています。☞

NPO 法人 自然文化誌研究会 会報

ナマステ 152号

2024年1月20日

ナマステ



特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

152号

2024年1月20日発行号



「民宿の屋上からの日の出」@タイ パンダキャンプの近く

自然文化誌研究会副代表理事 中込貴芳（なかごみきよし）

新年明けましておめでとうおめでとうございます。

一日の能登半島地震、二日の航空機事故と2024年は何か不穏なものを感じさせる出来事で幕開けとなりました。新型コロナウイルスに翻弄された時期も終わりようやく明るい日常が戻りつつあった矢先に、波乱含みの一年にならなければ良いと思ってしまいます。また、自らの活動の近いところでは、追い風になっていたアウトドアブームにも翳りが見えるという情報もあります。しかし、自然から学びの自然の中で遊び、主体的に自らを研ぎ澄ますことを目指した私たちの活動は、そうした危機の中ですます真価を発揮していくものです。状況に流されず、一步一步着実に私たちの活動を継続していきましょう。

タイ・ベトナム環境学習キャンプ2023 報告 中込貴芳（なかごみきよし）

＜今回のキャンプの旅程 2023年8月14日～24日＞

- 14日 成田出発 ハノイ経由でバンコクへ グランドビューホテル泊
- 15日 バンライへ パンダキャンプ近くの民宿泊
- 16日 ワークショップ（発酵の実験、パネルシアター、日本のエッセンシャルオイルについて） 民宿泊
- 17日 Tham Than Pod National Park(鍾乳洞観察) コテージ泊
- 18日 国立公園よりバンライへ タイマッサージ 民宿泊
- 19日 バンライからバンコクへ グランドビューホテル泊
- 20日 バンコクからハノイ Bendecir Hotel & Spa 泊
- 21日 LOD（派遣会社の日本語学校）訪問 Bendecir Hotel & Spa 泊
- 22日 ハロン湾観光ツアー Bendecir Hotel & Spa 泊
- 23日 ホーチミン廟、ホーチミン博物館、水上人形劇 深夜成田へ
- 24日 朝成田着



＜横山緑さんによるパネルシアター＞

新型コロナウイルスの流行により2020年以降中断していたタイキャンプを流行も落ち着いてきたので再開した。このキャンプは、バンコクの北西に車で4時間ほど行ったバンライという地方都市で、シリポン氏が始めた環境学習施設であるパンダキャンプと自然文化誌研究会（INCH）が20年余りに渡って交流し開催してきたキ

佐々木正久さんがYouTubeを開設しました。「まー君のナチュラルライフ」です。最新では小菅村での炭焼きの動画もアップされています。ぜひご覧ください！！

キャンプだ。このキャンプはシリボン氏と初めて知り合った頃は、パンダキャンプもまだできたばかりでその広場にテントを張って夜通し語り合ったことから始まった。それ以来、毎年訪問する様になり、子供達や地域の人たちと一緒にワークショップ行い、カレン族やラオ族などの少数民族の村を訪問してその生活や知恵を学び、近くの国立公園で野生生物を観察したりその保護について学んだりするというスタイルでキャンプを続けてきた。

今回のキャンプの参加者は自分も含め計5名、全員これまでこのキャンプに参加したことのある中高年、それに若林、エーさん夫妻と息子のキーリーを加えて8名だ。ベトナムの日本語学校に勤めている友人も訪ねたいと考えていたので、タイに6泊、ベトナムに3泊で8月14日朝出発、24日朝帰りの予定で計画を立てた。航空券はなるべく安く上げるために、航空会社はベトナムのLCCのベドジェットを使った。成田ーハノイ往復航空券とハノイーバンコク往復航空券を組み合わせて使うことを計画し、行き帰りハノイ経由でタイまで行くことにしました。これだと一人あたり8万4000円余り、完全前払いのキャンセル不可の航空券だ。

さてキャンプは、14日朝成田に集合してチェックインするところからトラブルが発生。ハノイのノイバイ空港で乗り継ぎに3時間あまり時間をとって乗り換えれる計画だったが、LCCだとトランジットの手続きをしてくれないらしい。そうなると一度、出国して入り直さなければならない。それで3時間は余りに不安だ。カウンターで困った様子をしてメンバーで話し合っていると、その様子を見て、受付の人が上司に掛け合ってくれて、特別にトランジットの手続きをしてくれてことなきを得た。

ベドジェットは流石にLCC。その狭いこと狭いこと。キャビンアテンダントの中には屈強な男性もいる。この理由はハノイからバンコク行きに乗り換えた時に明らかになる。荷物収納スペースに乗客の多量の荷物を無理矢理にでも詰め込まなくてはならないため、腕力が必要だったのだ。なんとか狭い座席に耐えながら夕方、タイのスワンナプーム空港に到着した。

空港で予め連絡を取っていたチナタッタ先生と久しぶりの再会を果たし、ホテルへ向かう。バンコクのホテルはいつも利用してるラジャバトプラナコン大学内にあるグランドビューホテルだ。

4年ぶりのバンコクは以前と随分違って、今回のホテルへの移動はスカイトレインなどの電車を使いながら行くことができたし、ホテルも内装が一一新されているしカードキーになっている。今回は、大学の近くの葬儀場からホテルまで歩いたが、来年はモノレールでもっと近くまでいけるらしい。

着いた晩は、お決まりのタワンデー ジャーマン ブリュワリーという大きなステージのあるホールに行き、チナタッタ先生と再会を祝う。やはり、バンコクに着いた晩はここで3リットルのタワービールで祝杯を上げてショーを見ないとこのキャンプは始まらない。明日は、バンコクを離れバンライのパンダキャンプに出発する。

15日、ホテルをバンライから迎えにきたワゴンに乗り、途中ロータス（タイの大きなスーパー）に立寄って午後にパンダキャンプに到着した。シリボン氏と再会を喜び合い久しぶりのパンダキャンプを見て回った。パンダキャンプは、植えられた木々がますます繁茂し最早ジャングルようになっており、かつて泊まっていた竹でできたバンガローは朽ちかかっている。キャンプの中には新しい研究棟が建っていてシリボン氏はそこで植物から抽出したエッセンシャルオイルの研究をしている。以前行っていた針なしバチの養蜂はあまりうまく行っていないようだ。一通りキャンプを巡った後、バンガローには泊まれないので車で近くの民宿に行って荷物を下ろし、キャンプに戻って夕食を食べながら明日のワークショップの打ち合わせをする。久しぶりのパンダキャンプの夕食は格別で、どこのタイ料理屋の料理より日本人の口に合い美味しい。しかも、同じ料理は2度は出ない。

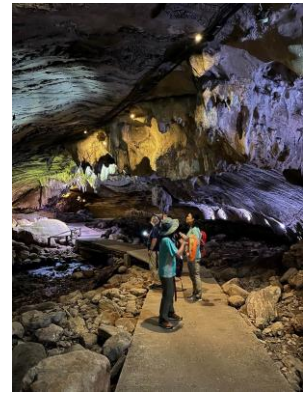
16日はワークショップ当日。朝、近くの小学校の子供達が30人余り、先生に引率されてやって来る。最初は、メンバーの永井さんの発酵の実験だ。酵母菌の入った小さなカラフルな粒を作り砂糖水の入ったペットボトルの中に落として、発酵によってできる気泡により浮き沈みする様子を観察する。その次は、横山さんがパネルシアターで笠地蔵と漢字の成り立ちについて上演する。パネルシアターは、フェルト地に絵を貼り付けて物語る動く紙芝居のようなシアターだ。タイの子供達は、素直で一生意気に取り組みパネルシアターを歓声を上げて楽しんだ。午前のワークショップはここまでで午後からはシリボン氏が、木の葉を集めさせて蒸留法によるエッセンシャルオイルの抽出の実験を行う。その時に私は、日本の香りやエッセンシャルオイルの利用について話をし、実際に杉やヒノキなどから抽出したオイルやお香の匂いを嗅がせたりした。ワークショップの後は、いつものビールで成功を祝って祝杯を上げる。一仕事終わった後のビールの味は区別だ。そしてビールはこのキャンプの必需品。



<ワークショップの記念撮影>



<発行の実験>



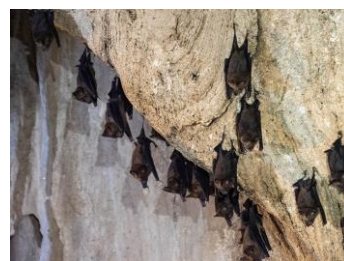
<国立公園の鍾乳洞>

翌日（17日）、いつも行くファイ カ ケン野生生物保護区は、レンジャーの研修会があるということで行くことができず、Tham Than Pod National Park という初めての場所に行くことになった。実はこの遠征には、シリポン氏ではなくシリポン氏の息子であるデーが同行する予定だったのだが、16日の夜にシリポン氏の自宅の玄関先で奥さんのポタンさんがグリーンスネークという毒蛇に噛まれて入院するという事故が起こったのだ。デーはその看病のためにバンライに残り看病することになって、急遽シリポン氏が私たちと同行することになったのだ。さて、この公園はバンライからは二三時間で行ける距離の小さな国立公園で、谷を流れる川の先が大きな鍾乳洞が長いトンネルになっておりそこを抜けて谷の上にある寺までトレイルが続いているらしい。着いた時には、公園に蝶が沢山舞っていた。鍾乳洞のトンネルには、珍しいカエルが生息しているらしいが見ることはできなかったが、何種類かの沢山のコウモリが生息していた。鍾乳洞のトンネルを抜けてしばらく行った先は、そのトレイルが荒れていて通行できないようで、我々は車で一旦公園の外に出てずいぶん遠回りした後、トレイルの終点の寺まで向かった。そこから少し降って、この公園のメインの奇観である巨大な石灰岩アーチを観に行った。ここは、カレン族に取ってかつてはとても神聖な場所だったらしく壁面には魚のような鱗模様が描かれている場所があったり、アーチの下にはたくさんの仏像が祀ってあった。確かに巨大なアーチの壮観な眺めといい聖地と呼ぶにふさわしい場所だ。実際にカレン族の夫婦が訪れて祈りを捧げていた。その日は、国立公園内のコテージに戻り宿泊した。

18日は、もう一度鍾乳洞を見学した後、パンダキャンプに戻りタイマッサージを堪能した。タイではマッサージは医療行為の一環で、バンライでは病院でとても気持ちの良いハーブマッサージが安価な料金で受けられる。しかし今回は、全員分の予約が取れず私だけシリポン氏と一緒に民間のマッサージを久しぶりに受けることになった。そしてその帰りに病院で入院しているポタンさんを見舞った。タイでは、毒蛇に噛まれた時には噛んだ蛇を殺して医者に見せるのだそうだ。そうすれば早く毒が特定でき迅速に治療が行える。奥さんのポタンさんの片方の足は大きく腫れていたが、聞いてみるとそれでも小さくなったようで、だいぶ良くなったそうだ。大事がなくて本当に良かった。



<巨大な石灰岩のアーチ>



<鍾乳洞のコウモリ>

19日は、バンライの市場に行き朝食を取った後で、バンコクに戻り、夜は再びビアホールへ。翌日は、タイではいつもお世話になっているシリワット先生の奥さんであるチンタナさんが朝ホテルに会いに来てくれて、シリワットさんから預かったお土産をいただいて一緒に食事した。そのお土産は、シリワット先生が現在住んでいるロップリーという街の伝統工芸品の土瓶と小杯のセットでかなり嵩張るものだった。タイの人はとても親切で義理堅くいつも沢山お土産をくれる。それはそれで嬉しいが、運ぶ手間とかもう少し考えてくれたらいいのにと思ったりもする。まあ、それは贅沢な悩みというものかもしれないが。その午後、自力で電車に乗って空港まで行きハノイに向かって出発した。

（後半につづく）